

令和3(2021)年度「秋期 授業調査アンケート」の総評

- ★ 期間：令和3年12月24日～令和4年1月18日の最終授業日に実施
- ★ 実施方法：新教務システム「Active Academy」でのWeb実施（無記名式）
- ★ アンケート数：

項目	総科目数	述べ受講者数	回答者数	回答率	未回答率
令和3(2021)年 秋期	202	3690	2569	69.6	30.4
令和3(2021)年 春期	210	4,227	3,308	78.3	17.8

令和元(2019)年 秋期	190	3,916 人	3,235 人	82.6	17.4
---------------	-----	---------	---------	------	------

- ★ 設問数は10、設問1～2のほかに設問3～10の回答・評価は、「評価1(そうは思わない)」→評価2→「評価3(どちらともいえない)」→評価4→「評価5(大変思う)」である。

【総評】

本学の授業調査アンケートは「学生の満足度を高め、教育の質保証を担保し、学生の声を聴く」ことが重要であることから、この調査を継続的に実施しています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症に伴い、これまでの高等教育機関では想定していない教育環境となっています。特に、今秋期のアンケートの回答率は、69.6%で極めて低く Web 実施前の紙ベース（令和元(2019)年秋期 82.6%）と比較すると約13%減で実施方法等の課題が浮かび上がっております。したがって、この結果を真摯に受け止め、授業担当教員と教育支援する職員が協力・協働して日々の教育研究活動を推進すること必要と思われれます。そして、今後のPDCAサイクルに基づく改善を図ることに大いに期待します。

各設問の着眼点は、以下です。

【設問1】「あなたが、この授業を履修した理由はなんですか」（複数回答）

時間割を作成するにあたり、約12%の学生は「時間割を作る上で好都合であったから」と回答しており、「その他」と合わせると約16%に及んでいる。春期同様、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーとの整合性を鑑みた時間割編成に期待したい。

【設問2】「この授業に対する1回分(90分)あたりの事前事後学習(宿題を含む)は、平均してどれくらいですか」

事前事後の学習状況は、平均 2.1 時間で春期より 30 分増えた。コロナ禍での対面授業は教員も学生も大変であるが、教育の質保証の観点から学習への取り組みに期待したい。なお、「4 時間以上」の事前事後の学習をしている学生が、春期の約 7%から 5%に落ちている。

【設問 3】「担当教員は、この授業の学習目的や必要性を十分に説明してくれましたか」
評価 5～4 の回答者は 1,854 人、72%で秋期 2,433 人、73%と同程度である。しかし、昨年度の秋期 75%、春期 77%と低下傾向である。

【設問 4】「担当教員は、この授業が理解しやすいように、教え方(教材や実演など)の工夫をしましたか」

昨年度の総評から「学生の満足度を高める工夫をさらに行う」ことを提起しているが、秋期評価 5～4 の回答者は 1,905 人、74%で、春期の 75%と同程度である。昨年度の秋期 76%、春期 78%と低下傾向にある。

【設問 5】「担当教員は、学生からの質問やレポートなどの提出物に対して、よく対応(フィードバック)してくれましたか。」

評価 5～4 の回答者は 1,874 人、73%で、春期の 74%と同程度である。昨年度の秋期 76%、春期 75%と低下傾向である。

【設問 6】「担当教員は、この授業をシラバスの計画にそって行いましたか。」

一昨年度、提起した「学生は、シラバスを利用した学修成果が求められる。」「教員は、シラバスを活用し、理解を深める努力することが望まれる。」の 2 項目は、比較的良い結果で推移しており、評価 5～4 の回答者は 1,890 人、73%で、春期の 76%、昨年度の秋期・春期 78%と低下傾向ある。シラバスに沿った授業展開に大いに期待したい。

【設問 7】「あなたは、この授業を、やる気を持ってまじめに受けることができましたか」

評価 5～4 の回答者は 1,887 人、69%で、春期の 72%、昨年度の秋期 75%、春期 74%と低下傾向である。一方で、評価 3～1 に回答した学生が 30%(春期の 28%、昨年度の秋期 25%、春期 26%)を超える学生に増えていることから、いかに学生に「やる気を持ってまじめに受けること」を説くことが求められる。

【設問 8】「あなたは、この授業を受けて、その内容に興味を持ち、学修したい気持ちが増えましたか。」

評価 5～4 の回答者は、1,747 人、68%で、春期の 69%、昨年度の秋期 72%、春期 70%と過去、最も低い結果となっている。このことから、カリキュラムを編成する上でカリキュラム

ポリシーやシラバスで記載内容を履修ガイダンスでの丁寧な説明が求められる。

【設問 9】「あなたは、この授業を受けて、新しい知識、技術、能力を得ることができましたか」

評価 5～4 の回答者は、1,894 人、73%で、秋期の 76%、昨年度の秋期・春期 77%と低下傾向であるので授業方法の変革を求めたい。

【設問 10】「あなたは、この授業に満足しましたか」

評価 5～4 の回答者は、1,898 人、74%で、各設問で同程度(春期の 73%、昨年度の秋期 75%、春期 76%)であった。なお、評価 5～3 を含めると 92%の学生が満足していると回答していることが設問 3～9 との回答(率)との矛盾が生じている。

[次年度(2022・令和 4 年度)への取り組み]

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① コロナ禍であるが、学生の事前事後の自学自習が大切であることを丁寧に説明する。② 学生からの提出物についてはフィードバックをする。③ 自ら授業に取り組むことができる教育環境づくりを意欲的に推進する。 |
|--|

以上